



地域と結ぶ

順天堂大学練馬病院ニュース

今回は各診療科の紹介を載せた特集号です



地域の皆さまの
心と身体のおアシスで
ありたいと願っています。
何なりと
ご相談ください。

診療科の紹介

総合診療・性差科 平野 隆雄

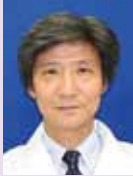


総合診療科は、あらゆる疾患を最初に受け入れる科であります。各診療科と連絡を密にして練馬病院に特徴ある総合診療科を目指します。リスクのない診療、スタッフ(医師、看護師、薬剤師、事務など)や、学生、研修医にとって魅力ある診療科を目指します。

乾 啓洋



循環器内科 住吉 正孝



循環器内科は狭心症や心筋梗塞などの冠動脈疾患、心不全、各種不整脈、大動脈疾患、末梢動脈疾患など、主に生活習慣病に伴う病気の診断と治療を行っています。患者さんの症状としては、胸痛、動悸、労作時や寝ている時の息苦しさ、長く歩くと足が痛くなる、などですが、健診等で心電図に異常があり、ご紹介いただく場合もあります。病気の多くが慢性疾患ですので、地域のかかりつけ医の先生方と連携して、それぞれの患者さんに合った治療を行っていくように心がけています。

消化器内科 宮崎 招久



消化器内科は食道、胃、腸、肝臓、胆嚢、胆管、すい臓など多くの臓器疾患が対象となり、各種検査を通して総合的に患者さんの病態を把握し、学会専門医・指導医のもと適切な診断・治療を行っています。上部下部内視鏡検査数は年間に6,000件以上、腹部超音波検査数は4,000件以上行っています。地域の皆さまに、より信頼される消化器内科を目指し努力してまいります。

呼吸器内科 木戸 健治



呼吸器内科では咳、痰、息切れなどの呼吸器症状のある方、症状はなくても健診で胸部異常陰影の認められた方など幅広く診察しております。疾患としては肺癌、肺炎、気管支喘息、COPD、間質性肺炎を中心に呼吸器疾患全般の診断、治療を行っております。

また呼吸器内科ではこれまで禁煙をしたくてもどうしてもうまくいかなかった人のために禁煙外来を開設しています。ニコチンへの依存を克服するために禁煙補助薬を用いながら医師、看護師が禁煙への手助けをさせていただきます。

腎・高血圧内科 井尾 浩章



腎・高血圧内科では尿の異常(血尿・たんぱく尿)や高血圧・糖尿病といった生活習慣病からの合併症である腎臓病(CKD:「シーケーディー」と最近言われています)を診療しています。腎臓病は目立った自覚症状がないまま増悪進行するため、早期に発見して必要な治療を行うことが大切です。検診で尿異常、血圧異常、尿酸値・クレアチニン値に異常があった方は腎・高血圧内科にご相談ください。CKDの増悪進行を予防する治療法を提供いたします。また残念にもCKDが増悪進行してしまった場合でも血液透析のみならず腹膜透析の選択も検討可能です。是非一度ご相談ください。

膠原病・リウマチ内科 名切 裕



膠原病リウマチ内科は、平成17年7月練馬病院開院当初より参入スタートし、徐々に医局員も増え平成25年1月より4人体制で、練馬区を中心とした西東京の膠原病リウマチ専門的診療の一翼として従事させて頂いております。膠原病リウマチを中心とした自己免疫疾患の患者さんを外来および入院病棟にて診療致しておりますが、リウマチコントロール不良の患者さんには生物製剤導入目的入院を勧めたりして最先端の高度免疫コントロール治療を施行しています。

血液内科 佐藤 恵理子



血液内科は、血液細胞(白血球・赤血球・血小板)を造っている脊髄や、免疫に関係のあるリンパ節から出てくる病気の診断・治療を専門とした科です。白血病、悪性リンパ腫骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫や再生不良性貧血、血小板減少症、血友病などが対象疾患です。血液検査で白血球や血小板が多い、少ないと言われた方はかかりつけの先生に相談して、骨髄検査やPET-CTなど精密検査が必要なようであれば血液内科を受診ください。

糖尿病・内分泌内科 川角 正彦



当科が対象とする病気は、糖尿病、甲状腺疾患、高脂血症などです。なかでも糖尿病は今や国民病と言えるほど増えています。最初は血糖が高くなるだけで、なにも症状はありません。しかし長年放置すると眼や腎臓などいろいろな臓器に合併症をおこし失明や腎不全の原因となります。そうならないためには、血糖を正常にたもつ必要があります。最近ではいろいろな治療法がありますが、いちばん重要なのは患者さん自身が食事などをはじめとする生活習慣を改善することや、病気を正しく理解することです。当科では患者さんがよりよい治療が行えるようお手伝いいたしますので、どうぞよろしくお願いたします。

脳神経内科 江口 博人



神経内科は脳脊髄、末梢神経の疾患を対象とします。脳は変性ととも機能低下し、最終的には萎縮します。“物忘れ”“手の震え”“足が進まない”などの症状が緩徐に進みます。代表的な疾患として認知症(アルツハイマー型認知症 etc)、パーキンソン病、それら類縁する疾患が含まれます。また、脳脊髄が突然障害される病気があります。“呂律が回らない”“手足に力が入らない”“しびれる”等の症状がでます。脳血管障害(脳梗塞、脳出血 etc)、感染症(髄膜炎、脳炎 etc)、てんかん、また脱髄などの炎症性疾患がこちらに該当します。これらの症状を認めた際は早めに当科を受診してください。適切な検査、治療をご提案させていただきます。

メンタルクリニック 八田 耕太郎



高齢化が急速に進行する中、せん妄をはじめとする脳の加齢変化を背景にした精神症状の入院中の発生は日常的であり、精神症状ゆえに本来の身体疾患の治療が滞ってしまうことはすくなくありません。そのような状況を避け、他科の医師やスタッフが円滑に仕事できるよう、入院患者の精神症状に可能な限り即応することを第一の任務としています。このため外来は、院内からの紹介のみの対応です。

小児科 新島 新一



小児科専門医13名(常勤医8名、非常勤医5名)により、新生児医療・救急医療をはじめ、ほぼ全ての小児医療に対応しています。神経疾患(新島・山下・吉田)、内分泌疾患(新島・石川・矢澤)、慢性腎疾患・夜尿症(大友・海野)、循環器疾患(高橋・福永・鳥羽山)、感染症(中尾・辻脇)、遺伝性疾患(新島・北村)、消化器疾患(工藤)、アレルギー疾患(和田)に多数の患者さんをご紹介いただいています。当科は特に低身長および夜尿症の診療に力を入れており、成長ホルモン治療(科長・新島)は現在250名以上と全国でも3~4番目の患者数です。また夜尿症診療(大友・日本夜尿症学会理事長)も300名以上と精力的に行っております。

小児外科 浦尾 正彦



小児外科は、新生児から15歳までの子供消化器、肝胆膵、泌尿器、体表の手術を広く扱います。小児科、成人外科との連携のもとに先進的な外科手術を行っています。

「患者さん、ご家族にとって安心、安全でストレスの少ない治療」を当科のモットーとして心がけています。最近では、膀胱鏡による尿路感染(膀胱尿管逆流)の治療、腹腔鏡による鼠径ヘルニアの手術などは痛みも少なく、傷もほとんどわからず、短時間で終わる手術として、患者さんやご家族から大変好評を得ています。子供の外科的病気に関してはまず小児外科にご相談ください。

総合外科 児島 邦明



胃がん・大腸がん、乳がん、膵がん、肝臓がんを中心に、がんの診断・治療に全力を尽くしています。腹腔鏡を用いてからだに優しい手術を行っています。胆石や鼠径ヘルニア、虫垂炎などにも腹腔鏡を使った手術を行います。入院期間は、膵がん以外では、通常1週間前後です。当院の専門内科の先生と協力して、手術後合併症のない安全・安心な治療を提供いたします。かかりつけ医の先生から紹介状をもらって予約センターでご予約をお取りください。

乳腺外科 北畠 俊顕



乳がんは女性の悪性疾患の罹患率で第一位となっており、さらに増加傾向にあります。一方、適切な治療を行えば他の悪性疾患に比べて高い確率で治癒を望める疾患です。当科では患者さんを中心とし、受診・検査・診断・手術・治療・経過の中で乳がん認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師ほかとともにチーム医療を実践し、常に最新のエビデンスにそった医療を提供しています。乳房のしこり、痛み、分泌液が出るなど、気になる症状でお困りの方はお気軽にご相談ください。

呼吸器外科 阪野 孝充



当科は胸部における心臓疾患以外の手術を行う胸部の一般外科です。対象疾患はがん死因の第一位である肺がんを筆頭に、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸、外傷など多岐にわたります。我々のモットーは、豊富な経験と大学病院の強みを生かした専門各科による集学的管理を行うことにより、手術を必要とする患者さんに最善最適の外科治療を提供することです。手術にリスクはつきものですが、短時間で劇的な治療効果が得られるという最大のメリットがあります。当科では年齢、合併症などで安易に手術不適応とせず、綿密に術前評価を行った上で、患者さんには分かりやすく手術のメリット・デメリットをご説明し、ご理解を得た上で、リスクと共に立ち向かいながら手術を成功させることを信条としております。病状説明には十分な時間を割いて、納得のゆくまで話し合うことが必要と考えておりますので、遠慮なく気軽に病状の相談を頂けたらと思います。今後とも胸部疾患で手術を必要とされる患者さんが安心してお身体を任していただけるよう、日々研鑽を積んで参ります。

脳神経外科 菱井 誠人



脳神経外科は脳、脊髄、神経の病気やけがに対して手術治療を行う診療科です。脳動脈瘤や内頸動脈狭窄症などの脳血管の病気に対しては、開頭術、血管内治療（切らずに治療するカテーテル治療）の、それぞれの専門医が常駐し患者さんの病態や希望に応じた高いレベルの治療を行っています。脳腫瘍に対しては、覚醒下手術、電気生理学的モニタリング、手術ナビゲーション、術中蛍光診断、内視鏡など、最新の技術を駆使して安全性の高い手術を行います。手術の困難な頭蓋底腫瘍の手術にも積極的に取り組んでいます。その他、もやもや病、正常圧水頭症、顔面痙攣、三叉神経痛などの病気に対しても専門治療を行っています。「患者さんが、今より幸せになれる治療」をいつも目指しています。

整形外科・スポーツ診療科 野沢 雅彦



開院以来、皆様方のご支援のおかげで、当院の整形外科も順調に発展することができました。特に股関節、膝関節、肩関節の疾患では、最新の治療を取り入れ、短期間の治療で患者さんが社会復帰をできるように取り組んでまいりました。また、脊椎疾患、手の外科、小児整形外科の分野ではエキスパートがそろい、大学病院として高度な医療を展開しております。スポーツ整形外科に関しましては、中・高・大学生および社会人からトップアスリートまで広い範囲の活動レベルの方に対応した治療を行っています。今後も、患者さん第1の精神で、診療活動を行ってまいりますので宜しくお願いいたします。

皮膚・アレルギー科 深井 達夫



当科は皮膚に関する異常・病気を幅広く診療しております。平日午前は2-3ブースで外来診療を、午後は日帰り手術・各種検査(皮膚を使ったアレルギー検査等)・病棟診療を行っております。予約制ですが、迅速な診療が必要な場合は適宜拝見いたします。診療は担当医制としており、基本的に毎回同じ医師が拝見いたします。全身型NB-UVBやエキシマライトを設置し、また生物製剤等の最新医療にも対応しております。全身麻酔が必要な手術やレーザー治療については順天堂医院や他の大学病院とも連携しております。何かご相談の際は、現在受診されている医師からの紹介状(診療情報提供書)をお持ち下さいようお願い申し上げます。

泌尿器科 坂本 善郎



当科では3D腹腔鏡による手術をしています。
巷では3Dの映画やゲームが盛んに製作されているため、皆さんも3Dにはある程度馴染みがあるのではないのでしょうか。しかし、医学の世界では意外にもそれほど活用されていません。病院ニュースNo.47で紹介した「ダビンチ」(天才レオナルド・ダビンチと同じ名前)という最先端のロボット支援手術では応用されています。最近、広く行われている腹腔鏡手術でも、3D画像を見ながら手術をするようになってきました。この利点は臓器を立体視することができ、それにより奥行きが鮮明になり、より安全・確実に手術ができることです。順天堂大学練馬病院泌尿器科でもこの3D腹腔鏡を導入して手術を行っております。

眼科 横山 利幸



当院眼科ではできるだけ幅広い年齢層、乳児からお年寄りまで、幅広い疾患、逆さ睫毛から網膜硝子体疾患まで、を対象に診療、治療を行っております。手術も小児の先天白内障や先天緑内障などの先天異常や斜視、中高年の緑内障、白内障、網膜剥離など幅広く行っております。手術は開院当時より小切開、低侵襲を目指しており、白内障は2.4mmの切開、硝子体手術も1mm以下の25ゲージを中心に最小は27ゲージでもおこなっております。手術装置や顕微鏡も最新のものを使用しております。残念ながら外来待ち時間は、完全には解消されていませんが、できるだけお待たせしないように関係スタッフは日々努力をつづけており、今年度は産休明けの先生も復帰しますのでさらなる外来のキャパシティをめざしております。

耳鼻咽喉・頭頸科 角田 篤信



耳鼻咽喉科の対象とする範囲は非常に広く、中耳炎や副鼻腔炎(蓄膿症)、扁桃炎などの一般的な疾患から、めまい、顔面神経麻痺、頸部の腫瘍やがんなど多岐に渡ります。また、一般開業医クリニックの先生や他科の先生との連携も重要な診療科です。

練馬病院耳鼻咽喉科はH28年より医師が4名に増員されました。治療内容も従来の扁桃摘出や副鼻腔手術に加えて、中耳疾患、めまい、顔面神経麻痺、嚔声の手術などが導入されたほか、特殊検査の導入などにより幅広い疾患に対応しております。耳鼻咽喉科疾患でお困りの方は是非ご相談ください。尚、当科ではより良い診療のために、おかけの先生へ紹介状の作成依頼ならびに予約取得をお願いしています。ご理解のほどよろしく申し上げます。

放射線科 尾崎 裕



放射線科には、大きなエネルギーの放射線を使って病気を治す放射線治療と、小さなエネルギーの放射線を使って病気を見つける放射線診断という2つの分野があります。当院の放射線科には21名の診療放射線技師、6名の医師(診断4・治療2、うち5名が専門医)、4名の看護師が専従しており、院内のすべての診療科と連携しながら、最新鋭装置を駆使して患者さんの診断や治療に寄与しています。

地域医療連携にも積極的に取り組んでおり、近隣のクリニックや病院からの依頼も受け付けておりますので、かかりつけの先生を介してでも結構です。お気軽にご相談ください。これからも「一生懸命・真心の診療」をスローガンに診療に取り組んで参りますのでどうぞよろしくお願いたします。

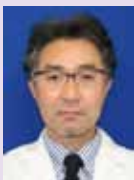
産科・婦人科 荻島 大貴



当科は年間700件の分娩と婦人科悪性腫瘍を中心とした婦人科疾患を専門に医療サービスを提供しております。妊娠、分娩に対しては助産師外来、院内助産を行い、昨年は産科麻酔専門医による無痛分娩を開始し、妊婦さんたちから好評を受けております。大学病院ならではの安全性を担保し、満足度の高い無痛分娩を提供しております。卵巣がん、子宮がんに対しても最新のエビデンスに基づいた標準治療の提供と患者さんの心情に合わせた治療を行なっています。

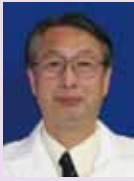
腹腔鏡手術も専門医のもと安全性を第一とし、患者さんに安心して受けただけよう工夫を凝らしております。月経痛などで困られている方もお気軽にご相談ください。

麻酔科・ペインクリニック 菊地 利浩



当科では手術における麻酔管理と外来における痛みの治療(ペインクリニック)を行っております。「安全で患者さんに優しい医療の提供」をモットーに、手術麻酔管理では詳しく解りやすい説明を行い、患者さんの身体に合った管理方法を考え、術後の痛みが少なくなるよう術後鎮痛も積極的に行っております。また最近では無痛分娩にも大きく関わっております。ペインクリニック外来では、慢性疼痛の患者さんに対して、神経ブロックを中心に薬物療法やリハビリテーションを加えた体系的な治療を行っております。腰痛や関節痛、頭痛、神経痛、がん性疼痛などにも対応しています。

病理診断科 松本 俊治



病理診断科が対象とするのは、全ての臨床科から提出される患者さんの組織検体および喀痰などの細胞診用検体で、病理組織診断、細胞診断、術中迅速診断を主な業務とし、病理解剖にも対応しています。臨床各科と連携をとりながら的確な病理診断を行い適切な治療のサポートをしています。当科では国内外のエキスパートとの交流を盛んにして病理診断のクオリティー向上を行い、国外病理医との活発な交流は当科の特徴です。

リハビリテーション科 黒須 昭博



当科は理学療法士12名、作業療法士5名、言語聴覚士3名で構成されています。当科の特徴としては、ボバースアプローチを採用していることです。ボバースアプローチとは、脳などの中枢神経系が障害を受けることによって生じる姿勢や運動の障害を神経生理学的に分析し、発達学的考察を取り入れたリハビリテーション治療の概念およびその手段です。なお、現時点では入院患者さんのみを対象にしており外来リハは行っておりません。

救急・集中治療科 杉田 学



当科は救急車で来院される方や他院からご紹介いただいた方を中心に、24時間体制で診療しています。ベッドが満床の場合にも、救急患者を一旦受け入れて応急処置を施す方針としており、いわゆる「救急患者のたらい回し」を防ぐことに注力しております。救急車以外で来院された場合には、診察の優先度を定めるためトレーニングを積んだ看護師が診療前トリアージをおこないます。地域の核となり、一人でも多くの方を救うべく頑張っています。

がん治療センター 花澤 喜三郎



順天堂大学練馬病院は練馬区内で唯一の東京都がん診療連携拠点病院です。がん治療センターの業務はがん登録、緩和ケア、がん治療連携・患者相談、外来化学療法に分かれています。また、外来患者さんに向けて、がん相談室での臨床心理士によるがん相談、認定看護師によるリンパ浮腫ケア外来、緩和（乳腺）外来、緩和看護師外来を行っています。

がん相談室は2階玄関奥のメディカルサポートセンター内にあり、臨床心理士が患者さん及びご家族の様々な相談をお受けしています。がんでお困りの方はお気軽にお立ち寄りください。

看護部 岡田 綾



看護部は大きく12の部署に分かれています。患者さんからも部署の責任者がわかりやすいよう、看護師長や主任はえんじ色のユニフォームを着用することにしました。何かお困り事の際は、どうぞ声をおかけください。

看護師の役割は2つあります。1つ目は患者さんの病気を治し、もとの生活に戻れるようにする治療を中心とした活動。もう1つは、いくつかの病を抱えながらも、住み慣れた場所で自分らしい生活をしていただくためのサポートです。高齢の方が多く社会になってきましたので、後者の重要性がとても高くなってきました。様々な専門家が知恵を出し合う時、24時間患者さんと係わる者だからこそわかる患者さんの思いがあります。それをしっかり発信し、最善の選択に貢献できるよう努力を続けていきたいと思ひます。

薬剤科 下嶋 和代



薬剤科では、処方箋に基づく調剤、服薬指導、注射抗がん剤の作成、医薬品情報管理など幅広い業務を行っており、院内の感染制御チーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチームにも参加しています。入院時の持参薬管理や入院中の薬剤管理など、病棟での業務も充実させてきました。がん患者さんへの薬剤師外来を開設し2年目を迎え、副作用対策に取り組んでいます。また、地域の薬剤師との連携にも取り組んでおり、地域連携を充実させていきたいと思ひます。

栄養科 高橋 徳江



栄養科は4名の管理栄養士と委託職員52名で構成されています。管理栄養士4名は、栄養管理業務を中心に医師の指示のもと、栄養食事指導や入院患者の栄養状態を確認し、栄養管理計画書の立案と栄養管理の評価を行っています。栄養障害のリスクがある患者さんには、多職種からなる栄養サポートチーム(NST)とともに専任管理栄養士が活動し栄養管理をサポートしております。入院中の給食サービスでは、練馬産の野菜など、旬の食材を取り入れ、美味しいお食事を真心込めて提供しております。食事は内科的治療、外科的治療と同様に病気を治す上で大切な位置づけと考えております。



二人主治医制

当院はかかりつけ医の先生と連携して二人主治医体制をとっています。

かかりつけ医
(診療所・クリニック)



普段のヘルス・
チェックや投薬

専門的・高度医療
入院治療が必要



初期医療
症状が安定

順天堂大学練馬病院
(地域医療支援病院)



専門的なチェック
や検査、緊急治療

「かかりつけ医」をお持ちください。

- ・ 安定した患者さんの普段のチェックやお薬は、かかりつけ医でお願いいたします。
- ・ 安定されていない方、重症の方、緊急治療の必要な方のケアを優先いたします。
- ・ 専門的な診断・診療により、安定された方は、かかりつけ医での治療の継続をお願いいたします。
- ・ なお、当院の受診が必要な場合は診療情報提供書（紹介状）をご持参ください。

